

マスク用不織布香南市に3万枚 包装資材の(株)精工

【香長】包装資材製造の精工（本社大阪市）がこのほど、2工場を置く香南市にマスクを長持ちさせる不織布のインナーシート3万3千枚を寄贈した。同社は1990年に同市香我美町に工場を開設。現在、県内では南国市を含む3工場で、梱包用のプラスチックフィルムなど手掛けている。今回は最初の進出市となった高南市の新型コロナウイルス対策に協力しようと、マスクの内側に入れることで長く清潔に使えるシートを人口分用意した。弁当の食材を分けるカッティングシートの製造技術を、不織布に応用したという。24日の寄贈式では五島一成工場長が清藤真司市長に不織布を手渡し、「収束の見通しが立たない中、少しでも役立ててほしい」。清藤市長は「地元企業と一緒に対策に取り組むことは意義がある。有効に使わせていただきたい」と話した。シートの使用先は今後検討するという。



2020年4月29日 高知新聞